

GIA
Gunma Innovation Award

起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード」(GIA)2025」(上毛新聞社主催、田中仁財団共催)は6日、ファイナルステージに15組が登場した。上州八木節保存会と桐生八木節朽津会が、威勢よい節回しと軽快な踊りで会場を盛り上げた。GIA歴代受賞者によるミニトークや、タイミング(東京都)の小川嶺社長による特別講演で、来場者は新たな挑戦や起業への意識を高めた。



独自の視点世界照準

ビジネスプラン部門入賞

高崎高2年

田嶋 龍介さん

バイナップルの葉を使つた自然派の日焼け止めの開発を企画・提案した。需要がなく廃棄される葉の成分を紫外線吸収剤に応用して、「人と環境が共存する社会の実現に貢献したい」としている。

自然派の日焼け止め



平田郁美県教育長(左)から表彰を受ける田嶋さん

Augmented Communications(オーディオ・テッドコミュニケーションズ)CEO

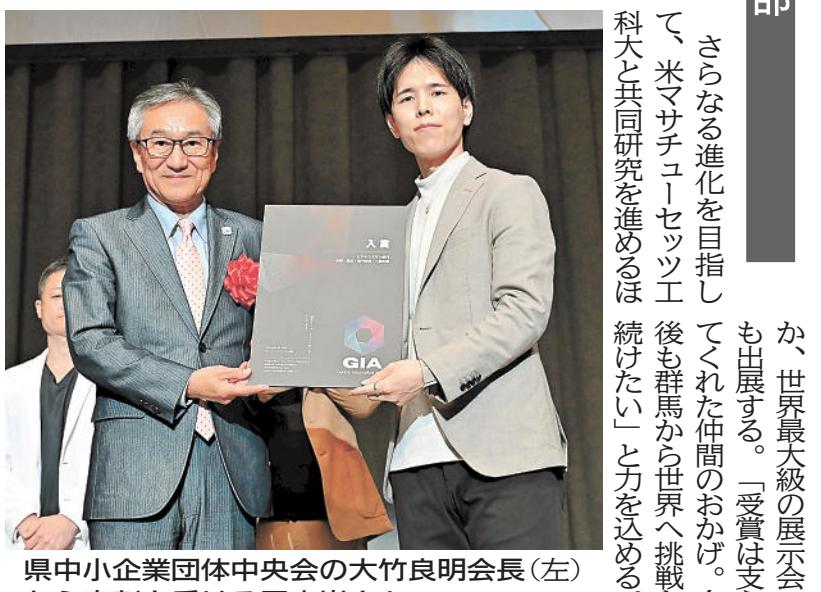
五十嵐 俊治さん

外国人材が活躍する場面が増える中、外国人スタッフの接客品質の向上が求められている。ただ、実現には多くの時間とコストが必要なのが現状で、解決を開発したのが音声対話型OJT支援ソフトウェアシステム「ナレッジボイス」だ。

経営トップの知見を対話などを通じて収集、分類、発話生成まで行う音声対話技術を応用。育成したい人材に合わせた修正や、企業ごとに最適な支援が可能。飲食や介護分野で導入する企業が増えている。

大学・短大・専門学校・一般の部

人材育成に音声対話



県中小企業団体中央会の大竹良明会長(左)から表彰を受ける五十嵐さん

高校生以下個人の部

君子es

(高崎高2年)

竹渕 遙希さん
森戸 士雄さん

高校生以下団体の部

相談を受けた時、気持ちをうまく伝えられなかつた経験から、応援したい人を支援するアプリ「L-IST」を開発した。ワークショットに参加し、相手の学びや挑戦を応援する「エンパワーワーク」、「思考整理」「情報提供」の3つの関わり方を学んだ。

AI活用し相談、応援



群馬経済同友会の坂本正堂代表幹事(左)から表彰を受ける竹渕さん

群馬大病院耳鼻咽喉科准教授

茂木 雅臣さん

大賞

スマートグラスを使った補聴器のトレー
ニングを提案し、大賞に輝いた茂木さん



医師として難聴や中耳炎治療に携わる。自身も先天性難聴で補聴器を着用し、同じ悩みを持つ患者と向き合ってきた。聞こえの改善に効果の高い補聴器だが、普及率は15%ほど。慣れると時間がかかり、使用を諦める患者も多い。「こんなにいいものを使えるか」と言われ、傷ついた経験した。トレーニングを続けやすくしたいと考えたのが「スマートグラス」の活用だ。拡張現実(AR)空間でアバターと一緒に会話を練習でき、人工知能(AI)との会話のため聞き間違いも恥ずかしくない。従来のイメージを刷新したいと、補聴器も眼鏡型を検討している。多くの人に思いを伝えられたことを喜び、「補聴器が眼鏡と同じ感覚で受け入れられる社会にしていきたい」。

来年は臨床研究を開始予定で、事業化に向けて歩みを進める。

補聴器トレ A Rで楽に

「ハラル」キッキンカー

り扱い、高校や大学への出店を目指す。

イスラム教の戒律「ハラル」にのっとった食材で作られた「ハラル食」を提供するキッキンカーラの出店を提案した。本県で生活するイスラム教徒の需要に応えた

いとする。学校行事の打ち上げで利用する飲食店として友人たちからハラル食を提供する店を提案されるも、合わせてもらうことに申し訳なさを感じて断り続けてきたという。自分と同じような悩みを抱えている高校生、大学生らを支援し、

伊勢崎高2年 RAHMAN SAMEEHAさん
(ラハマン・サミハ)

奨励賞



慶應大の国領二郎名誉教授(左)から表彰を受けるラハマンさん

PHOSLOOP(フォスループ)社長

青柳 拓也さん

ベンチャー部門入賞

農作物の肥料や飼料に欠けて炭に加工したり、リンを抽出したりして資源の安定供給につなげる。養豚農場がある」として、「農業への打撃にならない。」と力を込める。

リンは世界の一部地域に偏在する地下資源で、日本は全てを輸入に頼つてゐる。國際情勢不安で肥料が高騰すれば、農業への打撃になりかねない。

養豚農家が処理に困つていた豚ふん堆肥を引き取つた循環モデルを作りたい」と力を込める。

前橋市の協力を得て研究を進め、本県には「リン鉱山がある」として、「農業の方々と一緒に仕事を作りたい」と意気込む。

豚ふん堆肥を資源に



県商工会議所連合会の金子昌彦会長(左)から表彰を受ける青柳さん